

## 第23回 小豆島町総合教育会議

### 【日時・場所】

- 開催日時 令和4年7月22日（金） 午後1時30分～午後2時10分
- 開催場所 役場本館3階 大会議室
- 出席者 大江町長、坂東教育長、真砂委員、大石委員、照下委員、中川委員
- 同席者 **【町職員】**  
谷本副町長、山口総務課長、古郷こども教育課長、森生涯学習課長、出水こども教育課主幹  
**【教育関係者】**  
山本小豆島中央高校校長、大山小豆島中学校校長、平野池田小学校校長、林星城小学校校長、伊丹安田小学校校長、大山苗羽小学校校長、中本こどもセンターセンター長、入倉星城・安田・苗羽幼稚園園長、進藤池田保育所所長、慈氏せいけんじこども園園長
- 傍聴者 19名
- 事務局 3名

### 【内 容】

#### [山口課長]

ご案内の時刻が参りましたので、ただいまから小豆島町総合教育会議を開催します。議事までの進行を務めます、総務課長の山口でございます。よろしくお願いいたします。

総合教育会議については、昨年10月に会議を開催以来、本日が23回目の開催となります。会議は構成員であります町長、教育長、教育委員の6名で行うこととしています。

それでは、小豆島町総合教育会議規則第4条第1項の規定により、総合教育会議は町長が招集し、議長となりますことから、この後の議事進行については、大江町長にお願いをします。

#### [大江町長]

委員の皆様、傍聴の皆様には、暑い中またお忙しい中、ご出席を賜りましてありがとうございます。私が町長に就任して以来、最初の総合教育会議になりますが、これまでに22回開催されており、今回で23回目となります。

この間、本日の議題であります小学校の統合につきましても、何度も議論されてきたと思います。

今回、改めて、内海地区3小学校の統合についてを議題にご協議いただきたいと思いますと思っておりますが、町長就任以来、施政方針等でも繰り返し申し上げてまいりましたが、出生数の減少や校舎等の老朽化が進んでいることから、小学校統合は待ったなしの状況にあると思っております。

本日は、これまでの協議の経過や児童数などの現状をしっかりとご理解いただきまして、議論をしたいと思っておりますので、忌憚のないご意見を頂きますようお願いいたします。

それでは、会議を進めてまいります。はじめに事務局から資料の説明をお願いします。

#### [古郷課長]

こども教育課の古郷です。

内海地区小学校の統合に関し、お手元の資料に基づき、これまでの協議の経過や児童数などの現状についてご説明いたします。それでは、座って説明させていただきます。

出生数の減少や教育施設の老朽化を受け、これからの学校のあり方について、これまで、総合教育会議などにおいて議論がなされてきております。資料1ページと2ページは、これまでの総合教育会議のテーマと協議の内容をまとめたものです。

総合教育会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により、町に、総合教育会議の設置と教育大綱の策定が義務付けられたことを受け、平成27年6月から開催しております。

内容としましては、第8回までは主に意見聴取で、第9回以降に教育大綱の策定に向けた協議がなされております。その中で、これからの学校のあり方や、教育施設の統合再編について協議されております。資料では、緑色に網掛した回に、統合に関する意見が出されており、現状や課題、統合のメリットやデメリット、再編の方向性などが協議されており、平成29年3月に町の教育に関する総合的な施策をまとめた教育大綱に、学校の再編の方向性が示されています。

3ページは、教育大綱策定までに行った、「これからの学校のあり方について」の検討・協議の経緯をまとめたものです。

資料の真ん中上のところに総合教育会議があります。先ほど開催状況を説明しましたが、町長、教育長、教育委員に加え、有識者として町議会の正副議長、正副常任委員長、校舎所長代表にも同席いただき、審議を行っております。

町議会については、教育民生常任委員会において、教育施設の再編の方向性、学校のあり方の基本方針などを説明し、ご賛同をいただき、本会議で報告しております。

また、右の中段に記載していますが、住民に対しては、学校説明会13回と町政懇談会12回開催して、説明しており、保護者、教員、地域住民、議会などの意見を聞きながら、これからの学校のあり方を検討・協議し、教育大綱に内海地区小学校を統合、内海地区認定こども園を整備すると方向性を示しております。

4ページをご覧ください。教育施設再編の進め方の視点を示しております。これまでの協議がどのような考え方に基いて行い、学校再編の方向性を出したかについてまとめたものです。学校のあり方を考える上で、

- ①子どもたちの将来のためにどんな町、どんな島を目指すべきか
- ②未来を担う子どもたちにどういう教育をするのか、
- ③それぞれの地域社会の活性化をどう図っていくのか

を視点を考えて、特に教育についての視点としては、目指すべき子ども像、学校の抱える課題を解決し、より良い教育を実現するためには、出生数の減少により、児童数の減少が進む中、小学校は、ある程度の学級及び学校規模を確保すること、老朽化した教育施設を

改善し、より良い教育環境を確保することが必要になります。こうした視点で協議し、平成29年3月策定の教育大綱では、①小豆島中学校を小豆島高校跡地に移転、中学校に内海地区小学校を統合、内海地区の幼稚園保育所を認定こども園に集約すると方向性を示しました。

その後、平成29年5月の見直しは、教育施設再編の方向性に変更点はありませんが、高校を頂点とした幼保小中高一貫教育について見直しを行い、令和2年2月には、小学校の統合を念頭に置きつつも、池田地区に県立小豆島みんなの支援学校ができるなど、子どもたちを取り巻く教育環境の変化もあり、望ましい教育のあり方について総合的に勘案し検討していくと教育大綱を修正しております。

次の、5ページからになりますが、学校再編の大きな理由である施設の老朽化や児童数の減少について、現在の状況を説明いたします。

資料5ページは、小学校の校舎や体育館の状況です。内海地区の3小学校は、参考に記載しています池田小学校と比べ、敷地面積、建物の延べ床面積も狭く、築年数については、苗羽小学校の校舎が築63年と最も古く、その他の学校も50年を超える古い建物となっています。体育館についても同様に古く、苗羽小学校を除くと50年を超えるものとなっております。

6ページと7ページは、児童数の推移を表とグラフで示しています。6ページは、過去10年間の推移ですが、内海地区の児童数は、平成24年度の449人から令和3年度には、371人で、78人(17.4%)の減少となっており、10年間で1学年分が減少したような状況になっています。

7ページは、今後の推移ですが、令和3年度に生まれた子どもが、小学校に入学する年の令和10年度までを表とグラフで示しています。表の黄色で網掛けした箇所が1クラス15人を切るクラス、ピンクで網掛けした箇所は、1学校100人を切る学校を示しています。

ご覧になって分かるように、15人を切るクラスが年々増加し、令和10年度には、苗羽小学校の全学年、安田小学校が半分の3学年、星城小学校でも1学年が15人を切ることになり、児童数の減少が続く見通しとなっています。さらに、複式学級については、法律で、2学年合わせて16人以下、1年生を含む場合は8人以下と規定されています。令和10年度の苗羽小学校の1、2年生が、6人ずつ、合計で12人となっており、この年は1年生を含むため複式学級にはなりません。翌年の令和11年度には複式学級になり、教育活動への支障が危惧される状況となっています。

最後のページ、8ページには、今後の再編の進め方のイメージをまとめておりますが、上段は、大江町長が就任にあたり、施政方針で述べた内容を抜粋しています。出生数の減少により、近い将来複式学級が見込まれ、学びに支障が出ると予想されること、建物の老朽化により学習環境の維持が難しくなっていることから、小学校の統合は待ったなしの状況にあり、子どもたちのためにも、まちの未来のためにも、スピード感のある対応が求められている。4年間の任期中に快適に学べる新しい小学校の整備に全力で取り組むと方針を出されております。

進め方としては、総合教育会議において、統合に向けた基本方針を決定し、保護者や子ども、教員、地域住民への説明や、議会への説明をしていきます。目指す学校像や学校の教育方針などについても総合教育会議で協議していくことになります。

また、協議や住民説明と並行して、基本計画により建設場所を検討し、場所が決まりましたら、実施設計・校舎等の建設工事と進めていくことになります。以上で資料の説明を終わります。

[大江町長]

私のほうから 1 点補足をさせていただきます。今年度 4 月から現在までに生まれたお子さんは 10 名です。今現在、母子手帳をお持ちの方が 39 名、だいたい 2 月ぐらいまでの出生数は 49 名となることがほぼ決まっております。11 ヶ月で 49 名ですので、1 月あたりにすると 4、5 名で、仮に 5 名生まれれば一昨年と同じ 54 名、それより少なければ昨年並みの 50 名前後になるのかなというような状況です。したがって、3 年続けて 50 名ちょっとの出生数というのが現状です。

それでは、委員の皆様方から忌憚のないご意見を頂戴したいと思っております。どなたからでも結構ですが、いかがでしょうか。真砂委員、いかがですか。

[真砂委員]

何について言ったらいいのかなと思いますが、町長のおっしゃるこの 4 年間のうちに統合ということを考えると、私自身は複式学級になる前には保護者の不安もあると思うので統合をしたらいいなあと思っています。今、少人数指導を大切にと言われておりますので、複式学級になるまでであれば、学校自体については一人ひとりに対応することが統合するよりかは十分にできるのではないかと思います。そういう意味では子どもに応じた指導をしっかりと今から統合するまでにやっていくことが統合しても子どもがしっかりと学ぶことに繋がってくるのかなと思います。複式学級になる前までには統合はしないといけないなと思っております。

それともう一つ、一番大きなのは、どういう場所にするかということです。安全のことですが、何年前にも耐震ということで工事を実施していますよね。地震がくる、津波がくるということを考えた安全な場所というのが優先されないといけないのかなと、そういう場所がきっちり確保できれば統合をしていけばよいかと思います。以上です。

[大江町長]

ありがとうございます。大石委員、いかがですか。

[大石委員]

はじめて総合教育会議に出させていただいて、どういうふうな経緯できたのかということをお聞きして見させていただいたところで、ちょっと気になったことですが、町長の方針のところに「複式学級になることが見込まれており、子どもたちの学びに支障が出る」というところで教員の経験者として、教員はどんな条件であれ、ベストの成果を出す努力をしてきているという全国の教員の誇りというものがありますので、複式だから支障が出るという言い方は、納得できないところがあります。これは教員ならば誰もが感じるのだと思いますし、現在複式学級で学んでいる子どもたちもいますので、これが外にでるとどういう誤解を招くかわからないということを感じます。この部分についてはちょっと考えていただければありがたいです。ただ、複式になるというのは事実だと思いますので、

それをどう捉えるかというのはいろいろ考え方があると思います。我々教育をしてきた経験者として一番気になるのは地域からの信頼、保護者からの信頼を得ているかどうかというところで、どんな規模であれ、地域や保護者からの信頼を得ていれば、教育効果は出てくるし、いくら理想の規模であっても、地域や保護者からの信頼を得ていなければ、教育効果は出てこないと感じております。

この度、大江町長が学校の統合・再編を公約に掲げて当選したということは地域から、学校の統合・再編についての理解を得ていると判断しますので、統合について進めていったらよいのではないかと私は思います。地域から学校がなくなるということは、その地域にとって物凄い重みのあることで私は今までに三都小学校、福田小学校で統合に関わってきましたが、三都小学校においても統合を決めるかどうか地域で投票したときに三都をよくする会の方が各世帯で1票ということで若い者の意見を尊重しようという動きがあったために統合という方向に動きましたが、これが1人1票となると、たぶん反対の票が出たのではないかと思います。

福田においてもPTAの投票で行いましたが、棄権する人がいたために過半数の票を得ることできずに1票の差で統合ということを決めたわけですが、統合というのはその地域にとって重みのあることだと思います。統合を決めた以上は教員も保護者も子どもも成果を出すために全力をあげて、よくなるように努力をしていきますので、そこは心配ないと私は思っています。今のところ思っているのはそういうところです。

[大江町長]

ありがとうございます。大石委員のご指摘ちゃんと受け止めて、今後申し上げるときは気をつけたいと思います。中川委員、どうですか。

[中川委員]

私のほうは小学校統合については子どもたちの数は減ってくるのが分かったころから、ある程度人数がいるうちに早めに統合したほうが良いと思っていました。少人数だとできることがやはり限られてきますので、勉強はもちろんですが、小さいころから多くの友達と関わって育っていくことが大事なのではないかと考えています。

例えば統合が決まればどういった学校にするのか、島ならではの特色のある学校にしていったほうが良いように思います。全国で有名になるぐらいの特色のある小豆島ならではの小学校を作っていけたらと思います。今のそれぞれの小学校の特長、地域の特長を生かした学校を作っていけるように、そのためには、島民の若い層から年配の方々、移住されてきた方々からいろんな知識をもらって、情報を集めて、学校を統合するのではあればそういうことに力を入れていけばよいかなというふうに思っています。

[大江町長]

ありがとうございます。照下委員。

[照下委員]

私は、最初のころはそれぞれの地域で育てていけばいいのではないかと考えていましたけれど、この状況を見ますと、急激に人数が減ってきています。あまりにも人数が少ない

というのは、それぞれでというのは無理ではないかなと思いますので、統合については賛成します。私の友人に分校で育った方がいるんですが、クラスに女子の友達がいなかった。中学校に入っても、仲間づくりができなかった。非常に寂しい思いをしたというのを聞いたことがあります。なので、よき友人関係ができるような小学校を作っていただきたいなと思っています。

[大江町長]

ありがとうございます。坂東教育長。

[坂東教育長]

皆さん、統合には方向的に賛成ということで、私のほうも従来現在の教育大綱を策定するときから担当者として携わってきています。その議論の中で思ったのが、子どもの視点から言うと、一時期1つの学校が100名切ったら統合という話もあったんですが、これについては数字の根拠がなくて、私が思うには、先ほど古郷課長からもありましたが、1クラスが15人をきるような学年で6年間を過ごすというのは、なかなかコミュニケーションとかいろいろな面でも支障がでるのかなと。あと学習面でも、少人数教育というのは良いと思います。1学級が25~30人でそれを半分に分けて少人数教育をするということは非常に効果があると思いますが、学級自体が15人以下となるようでは、なかなか授業の理解度、教育面で支障が出るような状況でないかと思います。もう1つ、学校規模が小さくなれば、先ほど大石委員からありましたが、学校というのは地域が支えるという視点から子どもの数が減ってきて、PTA、保護者の数も減ってきて、地域では高齢者が多くなって、現在、各小学校、非常に地域の方に支えられているが、児童数が減るとするのはその学校を支える地域の力もやはり小さくなるのかなと、そういう意味で内海地区の3小学校を統合して内海地区全体で新しい小学校を支えていくということも必要だと思っています。

もう1点の視点として教員の立場としてはここ数年、教員の長時間労働が全国的に言われており、働き方改革ということが言われています。各学年1学級でその学年の先生が1人しかいない。それが若年の先生ということであれば、その先生がスキルアップして授業力改善していく意味でも1学年2学級以上あったほうが好ましいのかなと、そういう視点もあると思います。また先ほど大石委員からありましたが、それぞれの校長先生はじめ教員の方々が置かれた環境でベストを尽くして教育をしていただいています。やはり小規模校になってきて教員数が減ってくれば、授業以外の学校の業務の負担も個々の先生で大きくなっていくと思いますので、ある程度の学校規模を確保して先生の人数もまとまった学校のほうがいいのかと思います。

もう1点、先ほど校舎の話がでましたが、すべての校舎が建築50年以上、苗羽小学校は60年以上経過しているということで、エアコンの整備やトイレの改修も近年していますが、子どもたちが快適な環境で勉強して、運動して伸びていくにはやはりきちっとした校舎、教育環境が必要だと思います。私からは以上です。

[大江町長]

一通り、皆さんのご意見を伺いましたが、おおむね統合には前向きなご意見であったか

と思います。私の経験を申しますと、私は神浦生まれで、三都小学校神浦分校がありまして、そこに1年通いました。2年生から本校に統合になり、三都小学校に通いましたが、その時の同級生が18名でした。上下は30人くらいいたもので、その時はよかったです。私の長男が6年のときに私のときと同じ18名でした。その下はぐっと減ってきて、6年生が卒業するのを見越して、その時、私はPTAの副会長をしており、大石先生にもお世話になりましたが、PTAから統合してほしいという声をあげました。お年寄りの方からは学校がなくなれば、地域が寂れるというお声はいただいたが、PTAが一丸となってなんとか統合したいということをお伝え、ご理解をいただいて統合したという経験があります。統合して実際どうだったかというところ、特段父兄から異論は出ませんでした。統合前に統合したら困るという父兄も少数ですが、いざ統合してからは特に大きな支障はなかったという記憶があります。

三都小学校の場合は、ほぼほぼ一桁代の生徒になるという段階で統合に踏み切ったわけですが、今回もそういうことが将来的に見えている中で小学校を整備すると、3年4年長ければ5年かかるといった中で今決断しなければ、難しいなと私自身は思っております。さきほど今年生まれる予定の子どもの数を申し上げましたが、今、49名母子手帳をお持ちの方を含めて出産の予定があるわけですが、このうち19名が池田校区です。内海の3校区あわせて30名しかいないという状況です。それぞれの校区で申しますと、星城校区11名、安田校区11名、苗羽校区8名ということで、それぞれ7ページの表を見ていただくとわかりますが、6年生と新入生との差が減少するということになります。令和10年度の時から、11年度になると、池田校区では19名、星城校区では11名、安田校区で11名、苗羽校区で8名が入学し、すべての小学校でさらに生徒数が減少するといった状況になります。こういったことを踏まえて、私は就任当初から統合に舵をきりたいと、平成29年3月の教育大綱で統合、そして認定こども園による幼保の再編こういった方向性が出されていながら、今まで前に進んでこなかったということをお踏まえて、今もう決断しないと手遅れになるというふうには私自身は思っております。

一通り意見を伺ったわけですが、何か補足や他の方のご意見を聞いて気づいたことなどありましたら、どなたからでもお願いします。

#### [大石委員]

私、複式について言いましたが、経験としてはやはり2クラスあって20数人ずつの規模が一番やりやすかったというところ、どういうふうな問題が起きても対応できたというところ、クラス替えもできますし、それから子ども同士が競い合って伸びる、競い合うというのは、スポーツもそうですが、同年代の子どもと色々な考えを出し合って伸びていくというふうなことができる。そのためには一定の人数が欲しいと思います。体育にしても音楽にしても理科にしてもグループで考え方を出し合って、作っていくというのは、ある程度の人数が欲しいということもあって、できるものならやはり2学級20人ずつぐらいの規模がありがたいなと思います。決して複式がいけないというわけではありませんが。

#### [真砂委員]

私は統合するとなると、各学校の現状によって例えば学校に行きたくないとか行きにくいとか遠いところから来るとか、今の学校の状況であればどうにか来れている子もいるの

で、学校ごとにいつ統合が良いかというのはそれぞれ少し違うかなとは思いますが、ある学校はいつ、ある学校はいつというわけにはいかないと思うので、やはり複式というのが1つの、保護者の理解というか、また先生方も複式の指導という経験がない先生がほとんどですから、指導の仕方というのは不安があると思います。それは保護者にも伝わる、そういうことも考えると、早いうちにやる、複式になる前にやるというのがいいかなと思っています。以上です。

[中川委員]

さきほど大石委員も言われたように私の子どもも小学校入学したときから1クラスでした。そのときに気づいたのが、6年間ずっと同じクラスで通う、人数が24、5人の中で友達づくりが苦手な子もいれば、にぎやかな子もいて、その中で学校に行きたくないという問題が実際にありました。2クラス、3クラスあれば、いろいろなことができるというのはずっと思っていました。

[大江町長]

照下委員、何かありますか。

[照下委員]

皆さんと同じで複式だけは避けたいと思っています。

[大江町長]

教育長、何かあれば。

[坂東教育長]

統合の方向性は皆さん、意見一致したと思いますが、複式になるまでに、早めにということなんです。教育委員会の立場で言うと、保育所、幼稚園もあります。内海保育所、内海の幼稚園、非常に人数も少なくなっており、内海保育所については施設がかなり老朽化しているような状況にありますので、今の流れとしてはやはり小学校統合後にただちに内海地区の認定こども園ということですので、こども園のことを考えても小学校の統合については、町長が言われたように、スピード感をもって早めの統合ということで今後進めて行きたいと思っています。

[大江町長]

ありがとうございました。いろんな意見頂戴しましたが、委員の皆様方、総じて統合には前向きな意見だったかなと思っております。今後、認定こども園などの幼保の集約も含めまして、いろいろなことを相談していかなければなりませんし、これから当然地域への説明会や保護者の説明会も行いながら、総合教育会議で場所の選定など細かいところを詰めていく、また学校ができる日を目指してどういった学校にしていくのかということをしつかり議論して中川委員がおっしゃったようにわが町らしい全国に誇れるような特色ある学校をつくっていきたいと思います。今後そういった議論も進めていきたいと思いますが、今日の段階で委員の皆様方からおおむね統合の方向性にご賛同いただいたというふう



に考えております。次回以降の総合教育会議でききほど申しあげましたような細部の協議をぜひ活発に進めていながら、スピード感をもって取り組んでいきたいと思っております。どうか今後ともご理解・ご協力をお願い申し上げます。

本日の議題は以上でございます。その他何かございましたら、ご発言いただければと思いますが、ございませんでしょうか。

それでは、本日はこれで閉会とさせていただきます。委員の皆様、また傍聴の皆様、どうもありがとうございました。